

# 流行性角結膜炎の予防について

## 1 流行性角結膜炎とは

流行性角結膜炎は、アデノウイルスによって起こる疾患で、主として手を介した接触により感染します。季節的には、8月を中心として夏に多く、年齢では1～5歳を中心とする小児に多いが、成人も含み幅広い年齢層にみられます。

## 2 症 状

潜伏期間は8～14日で、急に発症し、眼瞼の浮腫、流涙を伴います。

感染力が強いので両側が感染しやすいが、初発眼の方が症状が強く、耳前リンパ節の腫脹を伴います。

新生児や乳幼児では、偽膜性結膜炎を起こし、細菌の混合感染で角膜穿孔を起こすので注意する必要があります。

## 3 感染経路

通常接触感染、流行性角結膜炎患者との接触により感染しますが、病院の医師、看護師、さらに職場や家庭などで、ウイルスにより汚染された、ティッシュペーパー、タオル、洗面器などに触れるなどして感染します。

## 4 治療・予防方法

対症療法的に抗炎症剤の点眼を行い、さらに角膜に炎症がおよび混濁がみられるときは、ステロイド剤を点眼します。

予防としては感染者の分泌物の取扱いと処分に注意し、手洗い、消毒をきちんと行うことが必要です。

## 5 感染症法における取り扱いについて

流行性角結膜炎は、5類感染症定点把握疾患に定められています。

## 6 学校保健法における取り扱いについて

流行性角結膜炎は、学校における予防すべき感染症第3種対象疾病に規定され、病状により学校医その他の医師において感染の恐れがないと認めるまで出席停止とされています。